

#### 4. 作付面積及び収量（データは 2004/5 年当時）

カリフォルニア州における米の作付け規模は、気象条件そして国内外の市場環境等で毎年振れがあるが、過去数年間略 50 万エーカーの作付面積で推移して来ている。農務省の統計によると 2004 年（03/04 年産）のカリフォルニア米の作付面積は合計 59.5 万エーカー（約 24.0 万 ha）となっており、アーカンソー州の 156.1 万エーカーに次ぐ第 2 位である。ルイジアナ州は 53.8 万エーカーで全米第 3 位となっている。カリフォルニア州が他米生産州と異なるのは、全作付けの 90%以上に中粒種が作付けられている点である。短粒種の作付けは 2001 年産で 2.5 万エーカーであったが、3 年連続で増加し 2004 年産は 4.8 万エーカー（全体の 8.1%）となっている。2004 年産の中粒種の作付けは 54.0 万エーカーとなっている。農務省農業統計局によると、2005 年（2004/05 年産）のカリフォルニア州における米の作付面積は 51.1 万エーカー（前年産の 14%減）としており、その内中粒種の作付け面積を 45.0 万エーカー（約 88.0%）と発表している。短粒種の作付面積は前年比 8%増の 5.2 万エーカーとなっている。2004/05 年産米の全米作付面積は 336.5 万エーカーと農務省は発表しており、内長粒は前年比で 6%増の 274.5 万エーカー、中/短粒種は合わせて 62.0 万エーカー（19%減）としている。カリフォルニア米の州平均単位収量（籾ベース）は、1950 年代迄はエーカー当たり略 2,500~3,000 ポンド（2,800kg~3,360kg/ha）であった。それが 1965 年には 4,500 ポンド/エーカーに達し、1970 年代後半に 5,000 ポンドを超え、1980 年代に入り 6,000~7,000 ポンドへと伸びている。そして 1990 年代には 8,000 ポンド以上（2004 年に 8,600 ポンド）を記録するに至った。このような単位収量の飛躍的な伸びは、品種改良を含め次の様なカリフォルニア稲作における技術発展の結果であるといわれる。

1. 1950 年代になりアンモニア態の N の土中への注入をも含め、N 肥料の効果的な施肥管理（施肥の時期、施肥量等）が普及。
2. 1950 年代から 1960 年代に掛け除草剤による雑草（広葉種の雑草そして野生ヒエ類）駆除が普及。
3. 1970 年代後半になり、レイザー光線を利用したの整地法が普及し、圃場の均平精度が極めて向上した事より、生育状況と気温変化に合わせた入念な水管理が可能となる。
4. 1970 年後半から 1980 年後半にかけ多収性の矮性（短稈）・早生品種が普及。

カリフォルニア米の単位収量は、常に全米第一を誇っており、前述の 2004 年全州平均 8,600 ポンド/エーカー（籾:9,640kg/ha）は、第二位のアーカンソー州の 6,910 ポンド/エーカーに 1,690 ポンドの差を付けている。

籾生産量を見ると、2004 年が 50,759,000CWT（約 230 万トン、全米生産量の 22%）であり、天候不順のため収穫量の少なかった 2003 年産比では 30%増となっている。